

1 学校教育目標	
教育目標……人としての在り方生き方の体得を目指したキャリア教育の推進をととして、学ぶ力と自立する力を育成する。 令和3年度の重点目標 生きる力とつながりを大切にした教育活動の推進	

2 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上や進路意識の高揚のために、朝学の効果的な運用を図るとともに、ICT機器の積極的な活用による新たな学びを推進する。 生徒の実態に合った授業を研究・実践し、生徒の学習意欲を向上、思考力・判断力・表現力を育成させる。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路意識の向上を図るため、インターンシップや「総合的な探究の時間」での校外学習をさらに充実させる。 生徒の進路目標実現や幅広い進路指導のため、外部機関との連携体制を構築する。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事や委員会活動等で一人ひとりの目標を設定し成長を促す。 支援が必要な生徒の実態を把握し、効果的な指導・支援する体制や外部機関との連携体制を構築する。 <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティスクールの活用により、地域との連携をさらに推進し、生徒の校外活動の機会を増やす。 学校だよりの発行やホームページの更新を増やし、保護者、卒業生、地域への情報発信を充実させる。 <p>【学校組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度末閉校を見据え、業務の精選・改善を図ることにより校務運営の効率化を促進する。 少人数の教職員が分掌を超えた協力体制を構築し、仕事量の均衡化や協働を意識した取り組みを重視する。 	

3 自己評価						4 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見要望	評価	
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着・向上							
	①基礎学力の向上	朝学の効果的な運営を図るとともに、ICT教育を積極的に推進する。	学校評価アンケート及び教務課作成アンケートの結果で肯定的な評価が4:8割以上、3:7割以上、2:6割以上、1:6割未満	4	朝学の時間はすべての生徒が肯定的な評価であった。ICTを利用することで、これまで以上に授業内容の理解が深まり、興味関心を持つことができたと思える生徒が大半であった。	ICT機器の活用で授業が大きく変化している。授業内容への興味関心の高さ、学習への前向きな取組がアンケート結果にも反映されている。	A	
	②家庭学習の習慣化	ICT機器やスケジュール帳を活用し、生徒が自主的・計画的な家庭学習ができるように促す。	学校評価アンケート及び教務課作成アンケートの結果で肯定的な評価が4:8割以上、3:7割以上、2:6割以上、1:6割未満	2	自主的な学習習慣は身につけ、定期考査・課題等への取り組みも積極的であるが、家庭学習の習慣が身につけていない。また、ICTを利用についても生徒で二分化されている。	家庭学習の習慣化は継続的な課題である。ICT機器活用の格差是正や家庭学習の取組を見える化するなどの改善策が考えられる。	C	
進路指導	進路目標の実現							
	①進路意識の高揚	インターンシップや上級学校授業体験等を一層推進し、生徒の望ましい勤労観・職業観を育成する。	事後アンケートの結果で肯定的な評価が4:8割以上、3:7割以上、2:6割以上、1:6割未満	4	インターンシップは2事業所2日間での実施形態に変更、内容は充実したものになった。上級学校見学は、生徒のニーズに合わせて事業所見学に変更、内容は好評であった。	3年間通じた意識づけにより、進路意識は学年ごと高まっている。インターンシップ等の実体験により、具体的な将来像が持てる。	A	
	②進路目標の確立	生徒一人ひとりの進路目標に応じて、個別学習指導やインターンシップの参加を充実させ進路実現につなげる。	事後アンケート、学校評価アンケートの結果で肯定的な評価が4:8割以上、3:7割以上、2:6割以上、1:6割未満	4	2学年のインターンシップでは個に応じた事業所を選定。全員の進路実現に向け3年生の進路も順調に確定している。	個々に応じた指導や取組により、一人ひとりの目標が明確である。少人数教育の利点といえる。	A	

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見要望	評価
生徒指導	人間力の向上						
	①人権意識の高揚	生徒間の相互理解を図るため、学校行事や学年行事等での交流を充実させる。	いじめ認知件数と、その後の処理について 4:0件であった。 3:あったが全て解決した。 2:未解決のものがあるが、すべて解決の方向である。 1:未解決のものがあり、解決の見込みがない。	4	全学年で取り組む行事を企画したことで、他学年との交流が生まれ、人間関係がより深まった。	学校行事等で、生徒同士の助け合いや他者を思いやる気持ちが育まれている。日常の学校生活を見ても、生徒の仲間意識の強さを感じる。	A
	②コミュニケーション能力の養成	学校行事等で「一人一役」を推進するとともに、意見発表の機会を充実させる。	学校評価アンケートの結果で肯定的な評価が 4:8割以上、3:7割以上、2:6割以上、1:6割未満	4	学校行事や総合学習など全体が集まる場では、他学年と意見交換をさせる機会を多く作ることができた。人間関係が良好なため、意見が出しやすい雰囲気づくりもできていた。	学校行事等への「一人一役」の取組は、徳山北分校の特徴である。培ったコミュニケーション能力を将来的に活用することが大切である。	A
地域連携	保護者・地域との連携の推進						
	①情報発信力の向上	メール配信、学校新聞、ホームページ等の情報発信の充実を図る。	4:情報発信の機会が昨年度より増加した。 3:情報発信の機会が昨年度並みであった。 2:情報発信の機会が昨年度より減少した。 1:情報発信の機会が昨年度より著しく減少した。	3	月1回程度で徳北だよりを発行し、須々万地域の学校や関係機関に配付するとともに、ホームページに掲載。メール配信は昨年度に引き続き、感染症予防対策に関する内容が大半であった。	学校だより等の発行物を、地域においてもよく目にする。今後も情報発信に努めてほしい。ホームページの閲覧数を増やす工夫も必要。	B
	②地域と連携した学習活動の充実	コミュニティスクールを活用し、地域と連携した体験学習、インターンシップ、ボランティア活動等を充実させる。	4:活動回数が昨年度より増加した。 3:活動回数が昨年度並みであった。 2:活動回数が昨年度より減少した。 1:活動回数が昨年度より著しく減少した。	3	自然体験学習や地元企業等と連携したインターンシップ、企業見学は充実した内容であった。コロナ禍でボランティア活動はほぼ実施できなかった。	昨年と同様に、ボランティア活動はほぼ中止となった。地域としてもリスクの少ない活動から再開していく。	B
学校組織	組織力の向上						
	①生徒の特性を踏まえた学習指導の推進	授業アンケートの検証・授業参観を充実させ授業改善を図る。	授業アンケートについて、肯定的な意見が 4:8割以上、3:7割以上、2:6割以上、1:6割未満	4	授業アンケートでは、全体に高評価である。授業公開等においては、今年度からの生徒募集停止により来校者が減少するも、参加者から少人数教育の充実に向け貴重な意見を頂く。	アンケート結果や授業参観者の意見から、授業改善は高い評価である。来年度の授業参観は、地域住民の参加もあると、より効果的になる。	A
	②外部機関との連携強化	外部機関との連携を一層充実させ、学習指導や生徒指導、進路指導体制を構築する。	4:外部機関との連携が昨年度より増加した。 3:外部機関との連携が昨年度並みであった。 2:外部機関との連携が昨年度より減少した。 1:外部機関との連携が昨年度より著しく減少した。	4	進路選択における取組で山口ごとセンター等と連携・協力。防災教育や人権教育等でも地域の教育力を活用し各機関とも連携をとることができた。	外部機関との連携が充実しており、様々な学校教育活動の充実につながっている。閉校に向けた連携の強化は重要である。	A
	③校務運営の効率化の促進	令和4年度末閉校を見据え、各種全体計画、年間指導計画の見直し、改訂を実施する。	4:全ての計画の見直しが見直しができた。 3:ほとんどの計画の見直しが見直しができた。 2:計画の見直しが見直しがあまりできなかった。 1:計画の見直しがほとんどできなかった。	3	学校全体、各分掌や委員会において令和4年度末閉校に向け、来年度開催予定の各種閉校記念事業の企画・立案や閉校記念誌の編纂作業等の進捗状況を踏まえ、全体計画や指導計画の見直し・改定を行っている。	令和4年度末閉校を踏まえた各種全体計画や指導計画の見直しと改訂、また取組は、今年度までの進捗状況としては十分に達成できている。	A

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染と拡大リスクを可能な限り低減したうえでの学校生活を求められた。こうした中、学校評価アンケートで「徳山高校徳山北分校に入学させて(して)よかった」と回答した保護者・生徒が多く、徳山北分校の教育活動を理解いただくとともに、学習等学校生活に対する高い評価を維持できたことは、大きな成果と考えている。授業評価アンケートでは、生徒の「自主的に学習する力が身につけている」との回答が前年度を大きく上回り、一人1台端末などのICT機器活用により授業が大きく変化し、主体的な学びが展開されていることが伺える。

一方で、学校評価アンケートの「ボランティア活動が活発に行われている」の項目で保護者から評価が低かった。コロナ禍で昨年に引き続きほとんどの活動が中止となった。今後、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、地域とも連携し活動を模索したいと考えている。地域との連携・協働は来年度末閉校に向けた取り組みにおいても重要となる。また、授業評価アンケートから、生徒の家庭学習への取り組みの改善は引き続きの課題である。

6 次年度への改善策

【学習指導】

生徒個別の学習状況について、ICT機器を積極的に活用することで学習の取り組み・定着具合を見える化する。また、ICT機器を通して得られた学習状況等を活用し授業等の改善を行うことで生徒の学びに向かう力の向上に努める。

【進路指導】

生徒一人一人の目標に応じた個別の進路指導の充実を図る。また、進路決定後は社会人として身につけておくべき事柄についても学ばせる。

【生徒指導】

学校行事等を通じて主体的に取り組む姿勢を身につけさせるとともに、教員間の情報共有をより密にとり様々な角度から個に応じた指導を行い生徒の自己肯定感の向上に努める。

【地域連携】

コロナ禍で中止していた地域と連携したボランティア等の活動を再開し、体験学習と同様に充実を図る。地域への積極的な情報発信や情報共有により、学校と地域が一体となり閉校記念事業等の閉校に向けた取り組みを進める。

【学校組織】

教職員数減少も諸課題について対応できる組織編成に取り組むとともに、外部機関との連携を一層充実させ、様々な学校教育活動の充実を図る。